

啓発チラシ作成

南山城村農業委員会

きょうと女性農業委員推進委員の会

南山城村農業委員会と「きょうと女性農業委員推進委員の会」が共同で作成したチラシ

農業委員会に女性の力を!

女性の持ち味を生かして、農業委員・推進委員、活躍中!!

新たな発想に期待!

あなたも女性農業委員になりませんか?
女性委員が増えることで、新たな発想や視点での議論や活動の幅を広げることが出来ます。
この村と各地域の農業活性化につなげましょう!

集落の想い、一緒に届けたい

農業を取り巻く環境は厳しいですが、農業者や集落の今後の思いを行政へ届けてまいります!

農業委員 小西 真穂子
推進委員 福中 穂子

あなたもありませんか?

農業委員 推進委員

農業・農村の活性化に向けて、全国で女性の農業委員・推進委員が活躍しています。地域の農地を守り持続可能な農業・農村を創るためには、女性の力が重要です。地域への思いに添ったあなたも農業委員会で活動しませんか? 農業委員・推進委員の改選は、今年度の令和5年7月です。

なんでも相談してください!

農業委員 久保 和徳
「女性農業委員の皆さん、気軽に相談下さい!」
女性農業委員・推進委員が応援します!

未来の暮らしをつくりたい

農業委員 佐村 立子
農業と共に暮らし続けたい! 地域活性化の思いを届けたい! 一緒にやってみませんか!

魅力ある農業を一緒に!

農業委員 大野 友美子
「農業を営みながら頑張っています!」
魅力ある農業へ向けて一緒にやってみませんか!

※農業委員会の改選は、令和5年7月です。次期の農業委員・農地利用最適化推進委員の募集時期については、各市町村の農業委員会までお問合せください。
発行: きょうと女性農業委員推進委員の会 協力: 南山城村農業委員会

南山城村農業委員会の女性委員5人が「あなたも委員になりませんか」と呼びかけるチラシが完成した(写真)。次期の女性委員5人が「あなたも委員になりませんか」と呼びかけるチラシが完成した(写真)。次期の女性委員5人が「あなたも委員になりませんか」と呼びかけるチラシが完成した(写真)。

全戸配布で呼びかけ

南山城村農業委員会

南山城村では、8月1日、村内1000世帯に配布された。

「新たな発想に期待!」(小西真穂子会長)、「集落の想い、届けたい」(福中穂子委員)、「なんでも相談してください!」(久保和美委員)、「未来の暮らしをつくりたい」(大野友美子委員)などの反響が寄せられている。

府内各地でチラシを活用

きょうと女性農業委員推進委員の会

府内の女性委員61人で構成する「きょうと女性農業委員推進委員の会」では、今秋から啓発チラシを活用し、各市町村で「女性委員の活用促進の働きかけ」を強化していく。

来年度に改選を迎える19市町村では、次期委員募集が来春に予定されている。女性農業委員にチラシを配布し、新たな候補の掘り起こしにつなげ、全市町村で女性委員の増加をめざしている。

府内初

女性農業委員が5人に!

京都市農業委員会



写真後列左から今井澄子委員、樹下ちえ子委員、星野佐紀子委員、前列左から阪本純子委員、久保幸恵委員

女性委員の活用促進に力を入れる京都市農業委員会は、新体制3期目となる4月から女性農業委員が1人増えて府内最多の5人になり、農業委員(21人)に占める女性割合(24%)でも府内トップに躍り出た。

J A京都市とJ A京都中央が推薦した各2人のほか、京都府中小企業診断協会が推薦した診断士(中立案委員)の女性が今期から加わった。

7月12日の農業委員会総会後、各委員から一言

「子どもたちが農業に興味を持ち、自分たちで育てた野菜を調理し、美味しく食べる食農・食育体験に力を注ぎたい!」(今井澄子委員)

「JAと協力して、秋の交流会(児童と料理や野菜販売を行い、農業に興味を持つ子を増やしたい)」(星野佐紀子委員)

「地域の子どもたちを元気にする活動と、農業振興のイベントなどに力を入れたい!」(樹下ちえ子委員)

「子どもたちが農業に興味を持ち、自分たちで育てた野菜を調理し、美味しく食べる食農・食育体験に力を注ぎたい!」(今井澄子委員)

「JAと協力して、秋の交流会(児童と料理や野菜販売を行い、農業に興味を持つ子を増やしたい)」(星野佐紀子委員)

「地域の子どもたちを元気にする活動と、農業振興のイベントなどに力を入れたい!」(樹下ちえ子委員)

現場の想い

▼「道の駅 お茶の京都みなみやましろ村」が2017年にオープンして、私も微力ながら出荷者に仲間入りし、期待しています。

最近では、お茶・しいたけが「消費者の信頼感」を損わないように、見た目や大きさ、病害虫の有無だけでなく、肥料や農薬にも気を遣うようになっています。

道の駅の成長を楽しみにしています。(徹)

「道の駅」が生きがいを作る

最近では、お茶・しいたけが「消費者の信頼感」を損わないように、見た目や大きさ、病害虫の有無だけでなく、肥料や農薬にも気を遣うようになっています。

道の駅の成長を楽しみにしています。(徹)

「サークル池姫」から元気をもらおう!

福井県境に近い舞鶴市と保良地区にあり、今年で20年目を迎える「サークル池姫」を紹介しましょう。その中心活動は朝市で、現在、9人の女性委員が「つないで発信」

「子どもたちが農業に興味を持ち、自分たちで育てた野菜を調理し、美味しく食べる食農・食育体験に力を注ぎたい!」(今井澄子委員)

「JAと協力して、秋の交流会(児童と料理や野菜販売を行い、農業に興味を持つ子を増やしたい)」(星野佐紀子委員)

「地域の子どもたちを元気にする活動と、農業振興のイベントなどに力を入れたい!」(樹下ちえ子委員)

農deきらきら

八幡市 今川雅裕さん



地域の水田を守る!

8条植え田植機など大型機械を駆使して市内の水田を引き継いで今川雅裕さん(49)が22歳で就農し、現在は水稲15畝(作業受託10畝を含む)と野菜70畝の経営を家族で営んでいる。

稲作の機械作業が好きで、「頼まれて預かる田の面積が年々増えて、苗を積むのが大変なので、雇用も考えている」と語る顔は、どこか嬉しそう。

野菜は、万願寺とうがらし、小松菜、なはな、ホウレンソウなどを栽培する今川さん。昨年4月から、「八幡市野菜の会」の会長(任期2年)に就任し、小松菜などの共同出荷でも地域に貢献している。

「今年就職した息子が、いつか農業を継いでくれるかも」と期待する今川さん夫妻は夏の日差しが照り輝いていた。

(八幡市農業委員会)

万願寺とうがらしをハウスで栽培する今川さん夫妻

特産「洛いも」を商品化

5種類の焼酎「精華の夢」で町をPR

精華町では、9年前から「洛いも」を町の特産品として栽培・加工し、洛いも焼酎「精華の夢」(5種類)を順次、商品化している。

5年前に白麹を用いた焼酎「精華の夢(白)」を発売し、3年前に黒麹を用いた「精華の夢(黒)」、昨年にアルコール度を通常の25度から「精華の夢」(左から黒・白、古酒、Light黒・白)



これらはふるさと納税の返礼品として登録され、古酒を除き精華町の広報キャラクター「京町セイカ」のオリジナルラベルが施されている。

洛いも生産者は現在32人に増え、町内のレストランや学校給食で洛いもパウダーが使われるなど、用途が広がっている。

焼酎の販売元(株)サン・ムーン代表取締役で農業委員の井上和也さんは、「多くの方々に飲んでいただき、洛いもを特産品としてPRしたい」と語っている。

(精華町農業委員会)

京都農業経営塾 10月開講 受講生を募集

京都府農業会議は、次世代の農業経営者を育成する「京都農業経営塾」(10月開講、全8回)の受講生を募集している。

塾では、経営者として実現したい目標と表現戦略を徹底的に考え、ウェブマーケティングや個別相談で専門家や先輩農業者

のアドバイスを受けながら具体的な実行計画を作成する。人材育成・財務分析・販売戦略など経営者に必要な能力を鍛えつつ、切磋琢磨する経営者の仲間づくりができる。

経営塾の参加費は1人3万円。受講の問い合わせ・申込先は、府農業会議(京都農人育成センター) ☎075・417・6847まで。

京都府支局 京都府農業会議 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 ☎75・441・3660